館報たつおか

発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
上郷町黒田☎22－5353

人口	5,894人
男子	2,846人
女子	3,048人
世帯数	1,600戸

（12月末現在）

住民の手による地域づくりを

就任のごあいさつ

館長　田中　興

一九八五年の輝かしい年を迎え皆様方には益々ご健勝のことと存じます。

さてこの度、前沢柳館長が一身上の都合により三年九ケ月にわたる立派な業績を残されて退任されることになり、図らずも不肖私が後任の重責を担うことになりました。もとより浅学非才誠に微力でありますが地区住民のご支援・ご協力をいただいて職務の遂行に努力したいと存じますのでよろしくお願いします。

本年度竜丘公民館の事業も「住民の手により地域づくりを推進する」という五十九年度の基本方針に添って、各委員会、クラブ等の活動を中心に、計画が着々と実践されてそれぞれ成果を挙げてきました。余すところ三ケ月は本年度のしめくくりとしての事業推進に併せて、年間事業の反省をもとにして六十年度の事業の基盤づくりの重要な時期でもあります。大部分の事業は前年度の踏襲或は維続ということになりますが、新年度への意見、要望を是非お寄せ願いたいと存じます。一方当面の課題としては地区住民の要望の高いグランド問題とモーテル類似施設建設問題は青少年健全育成と住みよい地域づくりの立場から、前者は実現に向けて、後者は絶対阻止に向けて他団体と連撃のもと強力にすすめて参りたいと存じますのでよろしくお願いします。

退任のごあいさつ

前館長　澤柳　辨治郎

皆々様には輝やかしき新春を迎えられ、益々御健勝にて御活躍のこととお慶び申し上げます。さて私ことこのたび一身上の理由により年度の中途でありましたが館長の職を辞任させていただくこととなりました。

館長在職三年九ケ月の間、地区皆々様のあたたかい御協力を賜わり公私共に一方ならぬお世話様に相成り大過なくその任を終ることの出来ましたことを衷心より感謝し厚く御礼申し上げます。

最近、近代産業文明社会における人間性喪失の問題が問われるとき、公民館活動を通じ市民ひとりひとりが生き甲斐を求め、明るく希望をもって逞しく生き抜くことは、今日の社会における大きな課題であり、これこそ公民館の果すべき重大な使命であると確信しております。

このような立場から社会教育の拡充振興を考えますとき、当竜丘地区における社会体育施設が極めて貧弱な事が目につきます。特にグランド問題は大きな課題であり、早期にその実現をはかりたいものであります。公民館が地域の皆様の期待を背負い田中館長さんを中心に一致団結し益々飛躍発展されますようお祈り申し上げ退任の挨拶とさせていただきます。

竜丘長寿番付

東　西

12月20日現在

横綱

横綱

氏名	区	年令	番付	氏名	区	年令
熊谷かつゑ	駄	93	横綱	牧野くわ	時	93
熊谷とめ	駄	93	大関	中島ひろ	桐	92
今村清蔵	時	91	張出大関	長沼い志	上	91
久保田鈴太郎	駄	91	関脇	熊谷静雄	駄	90
下平延太郎	駄	89	張出関脇	加藤庄作	時	89
武田東平	駄	89	小結	下平つるへ	時	89
中島みつ	時	89	前頭1	金井もと	桐	89
下平よし	時	88	〃 2	中平源一	駄	88
笹彦市	長	88	〃 3	山田この	時	88
岡村梅の	桐	88	〃 4	沖田逸穂	時	87
佐々木マサヲ	長	87	〃 5	中島ひろゑ	駄	87
大平知	駄	87	〃 6	大平はぎの	駄	86
原八代	桐	86	〃 7	沖田清智	時	86
林佐多興	桐	86	〃 8	林厚男	時	86
吉川重男	桐	86	〃 9	宮沢行治	時	86

汗にまみれた老若男女

駄科分館が逆転優勝

恒例の地区市民運動会が十一月三日、秋晴れの小学校グランドで地区民多くの参加で行なわれた。分館対抗では駄科分館が後半力を発揮して、時又分館に同点に追いつき判定で優勝を飾った。

秋晴れの絶好のコンディションの中、八時半の花火を合図に各種目に熱戦が繰り広げられた。

今年も、小林誠さんの元気一杯の姿がマラソンにみられた。子供たちが伴走してのグランド一周には大きな拍手がおくられた。

明星学園生の一般種目への積極的参加がみられ、一生懸命な姿が強く印象に残った。

老人パワーも張り切って出場、日頃の練習の成果はいかに。無欲の二振りに軍杯が上がる。もう一球あったらなあ。

分館対抗では、綱引きは実に力の入った熱戦だった。すべり出し好調の時又分館が駄科分館を破り、勢いに乗って一位、二位には長野原分館と、昨年来から上位、下位チームが逆転する結果となった。

前半は時又分館が一歩リードし、長野原、上川路分館の活躍が目立つ展開となった。

後半に入ってから駄科分館が、団体種目、リレーにと満遍なく力を発揮して、時又分館に激しく迫り、年次リレーで男女とも一位を奪うなどついに同点に追いつき判定で優勝を飾った。

（判定内容…一位獲得数、同数。二位獲得数、駄科の方が多い）

応援合戦も、パーマン、筋肉マン、人気ロボ、必勝タヌキなどがかけつけて、各分館趣向をこらしたものとなり大会を盛り上げていた。

今年は本部席を体育館側へ移しての運営を行なった。又、女性アナウンサーも登場し色取りを添えた。

青年会、安協をはじめ、関係者の協力と、地区民、家族ぐるみの参加で運動会が文化の日にふさわしく成功した。

成績は次の通り

優勝…駄科・四六点　準優勝…時又・四六点　三位…桐林・四四点　四位…長野原・四一点　五位…上川路・三七点

もっとゆっくり食べたいナー

日赤奉仕団入賞す

去る九月二日に、辰野町で開催された第十回長野県赤十字救急法競技大会において、日赤奉仕団竜丘チームがみごと六位に入賞し県から表彰されました。これは日頃からの救護の訓練の成果であると言えます。

この競技は一チーム三人で構成され、ケガ人の救護を三角布を使い、時間内にいかに正確に行なうかを競うものです。半年前の三月には予選を兼ねた飯田大会が開かれ、飯田市十六地区から各地区三チームづつが参加し、竜丘、上久堅、伊賀良、丘山、羽場の五チームが県大会参加の資格を得ました。県大会では全県から約三十チームの参加があり竜丘の入賞は飯伊でも初めてという事で高く評価されました。入賞した竜丘チームは、桐林、吉川美代子さん、林とよしさん、長野原、太田幸子さんの三名でそれぞれに日赤活動の経験の豊かな方達によって賞が得られました。現在竜丘においても、この救急法を知らない人が多いと思われます。この救急法はケガをした場合又、ケガ人が出た時に医者に行くまであるいは救急車が来るまでの応急処置方法と知識であり、いざという時に大変助けられるものです。

これをきっかけにしてもっと多くの人達に救急法を婦人会、公民館が開くセミナーなどを通じ知ってもらい非常時にそなえてほしいものです。又日赤奉仕団のふだん目立たない救護、炊き出し、家庭看護といった活動に対し地域としてもっと理解してゆかなければなりません。

鉛筆かついで

おかげさまで七十年

桐林　原　八代さん

今回は、桐林の原八代さん（八十六才）をたずねてみました。

原さんは、今では珍らしくなった機織りを今なお続けている元気なお婆ちゃんです。

機織りは、十九の時から始め、今日まで約七十年続けてこられたそうです。使う糸は今では遠くから取り寄せていますがつい二、三年前までは自分で繭から糸を取り、よって、それをくるみで染めて使ったそうです。又、今でも會孫の面倒を見たり、蚕を飼ったりしているとか、更に驚いたことに、機を織る時に模様を作るための糸の計算を暗算で行うという程、とても八十六才というご高齢とは思えないお元気さです。

力作を拝見すると、ご本人は、「年寄の作るものだで」などと申されますが、なかなかどうして、きれいに出来ていて、素朴の中にも温もりを感じさせるものです。織り上げられたものは、お嫁さんが縫って、こたつ掛けなどにして、近所の人などに差し上げて、大変喜こばれているそうです。

一諸に、お話しをして頂だいた、お嫁さんは、「人様に喜こばれて、大変良い趣味です」と、又原さんは「生活に心配が無いから、やっておれる」と大変仲の良い様子でした。

機織りは、体も頭も使い元気で長生きできる秘訣ではと、お聞きしたところ、お嫁さんに、それだけでは無く、普段の心掛けで、うちのお婆さんは、「今日もまめだったで、おかげさま」「機が織れたで、おかげさま」と何事につけ、「おかげさま」の心を持ち、小さな事で、泣いたり、腹を立てたりせず、感謝の気持を持つ事が大切と語ってくれました。

つまらない事で、不平不満を言い、悪い面ばかりが目に映る我々が、見習わなければならない事ではないかと感じさせられました。

いつまでも、元気で機織りを続けてください。

ヤブ蚊

昨年秋行なわれた長野県知事選挙並びに、飯伊市長選挙、飯田市議会議員補欠選挙は、当市では同時選挙だった為、投票率も八六・八三パーセント（四九、六九一人）と高く、竜丘においても八七・〇七パーセント（三、六三六人）の人が投票しました。

選挙（投票）は国民の権利と同時に重要な義務です。投票日に都合の悪い人の為には不在者投票制度もあり今回の選挙では市全体で二、〇九一人がこの制度を利用しました。国民の義務であると書いている私自身、残念ながら今回その責任を果せませんでした。投票日には行くつもりでいたのですが急用が出来てしまい、次の日（投票日前日）この不在者投票をすべく仕事を早目に切り上げ、市役所の飯田市選挙管理委員会室へと向ったのですが、委員会室へ入ろうとする数秒前に五時になってしまいました。投票出来るか聞いた所、五時までだからダメと言われしかたなく帰って来ました。規則にある以上、その時の選挙管理委員会の人の態度は正しかったと言えるでしょう。時間までに行けなかった私が悪いのですが、五時で終了という現行制度は果して現実に促しているのでしょうか。

増々厳しくなる労働条件（残業、交代勤務等）や生活の中で、たとえ義務とはいえ不在者投票の為に早退や休日を取る人はほとんどいないのではないでしょうか。更に公選法改悪により選挙期間は短縮され、一層不在者投票等はしにくい状況が作り出されています。

明るい選挙や投票を呼びかけるだけでなく、是非共早急に現行制度を見直し、不在者投票の時間の延長等検討し、現状に合った選挙制度（投票制度）にしていっていただきたいものです。

雨も吹きとばす文化祭！
旗にこめる平和の祈り

昭和五十九年度竜丘地区文化祭が、去る十一月十日十一日の両日、竜丘小学校で開かれました。

展示の部では、小学校児童の作品を中心に地区内の各種団体の力作が展示され日頃の活発な活動をかいま見る思いがしました。特に時又、竜丘両保育園児の作品展には、見る人の人垣ができました。

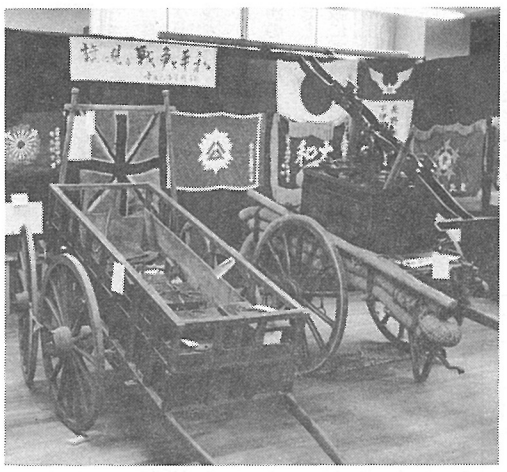
明星学園コーナーでは、学園の日常生活がイラストや写真などにより体系づけられて紹介され、日頃の園生と先生との愛情あふれる生活ぶりが心に残りました。

又、昨年度「おしんの家」で好評を博し、その展示内容が期待された民俗資料保存委員会では、「旗に見る戦争と平和」「防火消防をふり返ろう展」の二本柱で「旗」を利用したユニークな展示がされました。折しも無火災記録が続いていただけに、旗や昔の消防機材を使っての展示はタイムリーな企画でした。又、日頃目にしない「竜丘村翼賛会」の旗などから、見る者に戦争の恐ろしさの一端を見せつけ、平和の尊さをあらためて感じさせるもので圧巻でした。民俗資料保存委員会の展示には、展示への意欲と苦労が随所に見られ、その内容が昨年より別の意味で深度の高いものであっただけに、竜丘民俗資料館の一日も早い完成を切望させました。

催し物では婦人会・小学校PTAによるバザーや、婦人会・青年会による喫茶コーナーが、例年同様人気を集めました。しばしの休憩にとコーヒーやおでんをおいしそうに口にする親子連れが多く見うけられました。空席待ちの人も多く見られ、もう少し広い場所が欲しいと思いました。

体育館で行なわれた芸能発表会では、各グループの熱演に、各自持参の座布団を尻に敷いて、拍手を送る姿が多く見うけられました。

十一日の日曜日は、あいにくの雨にもかかわらず朝から多くの地区民で賑わいました。又、小学校の各教室や廊下で、児童の研究作品などに、じっくりと目を通す地区民の顔が多く見うけられ、昨年に引き続いて小学校で行なわれたことの意義が十分に生かされた文化祭となり、来年度への期待も大きく抱かせるものになりました。


当時を偲ぶ貴重な展示品

グループ紹介

めざせ！南信美術展
油絵教室

先に行なわれた文化祭の一画に展示してあり、なかなか好評だった油絵。これが、まだ発足してから四ケ月余りの、公民館油絵教室の方々の作品です。

この教室は、「油絵を習いたい。書いてみたい」と言う区民の声に答え、公民館で希望者を募り、また講師には、区民であり、県展等に数多く出品している油絵のベテランの方をお願いし今年の六月に発足しました。

油絵とは、油絵の具を使って布(キャンバスと言う)や紙に描く洋画のことですが、水彩画とちがって、色をぬり重ねていく点が特徴です。

今まで絵と言えば、和室の床の間に似合う、水彩画の掛軸の方が身近でしたが西洋風な建物や、洋部屋には、額に入れた油絵の一枚もほしいものです。また、近県の美術館では、フランスの画家ミレーの有名な作品が展示されたりして、我々の油絵に接する機会も以前より多くなりました。

そんななかで発足して以来、牛頭や女性モデルを描き、今は、静物にとりくんでいます。現在会員は、二十名余り、うち女性が七割弱を占めていますが、毎月二回（第一・第三木曜日）の午後七時半からの教室の時には、貴重な時間をむだにしてはと、黙々とキャンバスに向かっています。

今回の文化祭への出品で自信をもち「来年は、南信美術展へ出せるような作品を！」とはりきっています。

まだ、出発してから間もないため、組織が出来ていないのが現在の課題です。そろそろ、会長・規約等を決め、組織をつくり、会を充実して行くことが目標です。

「あなたも油絵を始めてみてはどうですか」来年の文化祭には、もっと多勢の方の多くの作品が出展されるといいですね。

美人モデルをかこんで

「心のやすらぎ―「念仏講」」

春は専養庵の花まつりと共にやって来た。子供達は粉餅で作った、色とりどりの「花草だんご」をもらうのが楽しみだった。

秋のお宮のお祭りには、地区の人達による、田舎芝居が人気をよんだ。

「あわんぼひえんぼ」も「まゆ玉作り」も「なりそうか切りそうか」も今の子供達は知らない。

古い伝統行事が次第に姿を消し、商業主義の祭りや行事が、大々的に宣伝される中で、昔から十戸余りの家で、ささやかに受け継がれている行事がある。

桐林久保尻に、脈々と続いている「念仏講」がそれだ。一つの玉がピンポン玉ほどもあり、全長十メートル余りの大数珠を、八十八回廻し、八十八ケ所の寺名をしるした木札を一廻りするごとに木箱へおさめてゆく。名刹八十八ケ寺を廻るのと同じ、御利益があると考えられたのであろうか。

歴史は定かでないが、今は亡き私の祖母が、子供の頃から行われていたと聞いたことがあるから、悠に百年は越えているものと思われる。

現在は、春と秋の彼岸の日に、会員の家を宿に行われ、毎回の僅かな賽銭で、道具類も少しづつ新調されている。八十八札所を表わした掛物などは、ぼろぼろになっているが、それが又歴史と伝統の深みを感じさせている。

念仏の由来も、曼陀羅の掛軸の意味も深くない婦人達が、しかし数珠をおくりながら、無心に念仏を唱える姿は、この世知辛い世の中に、一つの光を見る思いがする。

若々しく生きる
竜丘中老ソフトボール

前々より竜丘には老人ソフトボールチームがないので結成しないかと度々要請されて何年か発足を見ぬまま来た。老人がスポーツに親しむことにより健康の保持と老人相互の親睦を図り健康で明るく楽しい生活を築くと共に老後の生き甲斐を高め、広く老人福祉についての関心と理解を深め福祉の向上を計る目的をもって、地区農業委員の呼びかけで六十才を超えた有志が相寄り、準備会を発足させた。主旨に賛同された会員三十五名が、四月、万寿山の桜の花の下で設立総会を開き、名称も老人より中老ソフトボールクラブとして「若々しく生きる」をモットーに発足したクラブです。

成績ですが前期はグランドも借りられず片隅で何回か練習を重ねどうやら試合の出来るまでのチームにまとめ、春の市老連大会、他地区との試合を一勝四敗一引分に終り、後期は他地区チームの好意により親睦試合を重ね、揃ったユニホーム姿に変身。

中央道沿線スポーツ大会秋期市老連大会、第一回全国老人ソフトボール大会に参加。十一勝五敗一引分けで初参加としてはまづまづの年として来年に望みをつなげた。

働き盛りを過ぎ、初老期に入った我々。六十を越えた中老の年代を巾広く生きる者が交流を計りつつ、地域に貢献することを生甲斐とし、次の年代のステップとした無理のないスポーツとして今後も続けて、次にくる年代のスポーツ（ゲートボール）等の体力維持に向って努力して参りたいと一同頑張って居ります。

老人の運動広場は竜丘でも近くに必要と痛切に感じました。

しゃもじ教育のススメ

昨年十一月二十六日の夜竜丘公民館で第六回目の竜丘市民大学講座が開かれた。講師はパトリシア・ジャンカーさん（松本在住。主婦で松商短大講師を勤め、英語教室や聖書書店なども経営。五十九才）

今、御家庭のお子様は何才になられますか。子供の躾は一才前から始めなければなりません。善悪の区別をしっかりつけさせるのです。ほめるべき時にはほめしかるべき時にはしかる。そのために私は特別な道具を使いました。人呼んで、「しゃもじ教育」。同じ手で頭を撫でたり、ぶったりしないという考え方から、身近にあったしゃもじを使って子供の尻をたたき罰します。これは聖書にも「愛すればムチを打て」とあり許されている事なのです。幸い子供達も明るく素直に育ってくれました。受刑者の子供の頃の話を聞くと、親にあまり信頼してもらえず、まして誉めてももらえなかった人が多いのに驚かされます。誉める事がどんなに子供を励ます事になるかわかりません。今の親達は子供の躾に関して自信がないように思います。そのためにも心の寄りどころとして聖書は力になってくれます。

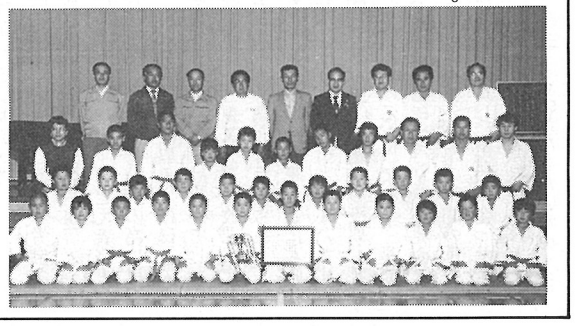
以上が講演要旨ですが、先生のお話の中に罰するという語句が多くでて来ます。小さい頃は甘やかしがちな私達にとって参考にすべきお話でありました。

あっぱれ小学生
少年柔道大会

八年目を迎えて現在五十一名が南島師範指導の下、心技体の鍛練に励んでいます。紅一点の原美佐子二段は今年も北信越代表全日本二度出場の美人指導者で女子の入部を望んでいます。

十月十日、百二十三組六百十五名参加の飯伊青少年柔道大会小学校高学年の部に出場の竜丘Aチーム大平顕洋、原一生、中島秀俊、中島茂徳、中島隆明、中島勉の諸君はせめて一勝をと願う我々の期待に嬉しくも応えて、強豪四組を退け決勝に進出。一点差で優勝は逸したが県大会上位独占の飯伊勢の中で、又他支部に比べ専用道場もなく練習時間の短かい竜丘だけに、準優勝は高く尊く、ささやかな自信と共に爽かな想い出が子供達に残るでしょう。

十一月十八日、飯伊柔連三十五周年記念学年別大会でも大平顕洋君は七十名中二位の銀メダルに輝き華やかだった今年も暮近く、一時の勝に驕る事なく学校、家庭と協力し他クラブと交流を深め、強く明るく正しい子の育成の一端を担い、ボランティア精神あふれる十名の指導者を代表して成果の一部を報告し、本年の皆様の万福を祈念して擱筆します。



あの人この人

八月二十一日～十一月二十一日届分

◎永遠に幸あれ

湯澤　富夫　川口市
下田美佐子　時又より
加藤　直樹　時又
藤綱　利枝　羽場より
林　悦雄　桐林
吉田由香里　岐阜市より
安藤　誠　松本市
今村　直美　時又より
塩澤　豊　時又
三石　春栄　松尾より
久保田道秀　駄科
橋爪よしえ　下久堅より
倉澤　和彦　桐林
木下登美子　下殿岡より
長沼　博明　千代
鈴木美代子　駄科より
清水　勝文　川路
下平千代子　桐林より
宮澤　信也　松尾
大久保禮子　駄科より
五藤　隆氏　駄科
足立　絹江　一宮市より
船渡　茂仁　駄科
成澤　結花　丸子町より

⊙伸びよ健やかに

（氏名）（区）（父母）
大平　剛史　駄　正彦
坂井おさ女　時　元信
佐々木美由紀　時　富秋
田添　愛香　駄　荘文
澤口　佳裕　時　吉夫
和地こず恵　時　吉男
古田さやか　時　仁志
吉田　拓矢　時　賢二
下平江利子　桐　喜義
今村美恵子　長　正道
澤柳　弘樹　時　秀人
吉川　明　桐　武彦
宮下　育美　長　修二
久保田泰司　駄　秋一
福與　泰隆　駄　信尋
坂井　綾子　時　康助
田中　幸恵　駄　善太郎
米澤　潤　駄　豊秋

■御冥福を祈る

林　元　桐　女　84
下平　稔　桐　男　56
石田みつゑ　駄　女　94
下井田ミョシ　長　女　83
小林　義直　長　男　51
久保田きんよ　駄　女　86
中村　千文　駄　女　74
林　さかゑ　駄　女　75
木下　理子　長　女　25
玉本　文子　駄　女　55
伊原　春男　時　男　79
小林　浩　駄　男　76
久保田すゑ　駄　女　88